

♪黄色い落ち葉を焚きながら 果物列車がやってくる 芋芋 栗栗 梨梨 柿柿 葡萄葡萄 林檎林檎 松茸松茸松茸

まさに、こんな季節がやってきました。今のところ、台風の被害もなく、お米は 予定通り刈り入れが進み、大地の畑には、かかしに守られながら、ハゼかけ米が姿を現しています。プルーンやひまわりの種に続き ジャガイモ、栗 梨 葡萄 林檎のどれかを、ほぼ毎日味わい、アケビ そして 枝豆などが加わる毎日。まさに、季節感たっぷりの毎日を、味覚と視覚、更に触覚を十分に使って、秋を楽しむ毎日です。

そんな中での、子ども達が楽しんだ稲刈り。春の田植え そして チェーン除草 ヒエ抜き そして、稲刈り。これらの作業は、うわべだけの体験では無く、立派の栽培労働です。大人の助力は一切無く、そして、切り売りのな休みや休息も無く、徹底的に集中して行います。親子一緒だと、こういう訳にはいきません。そこには、美しいそしてたくましい世界、子ども達の姿があります。先月号でかいと、大草原シリーズの物語に出てくる開拓者やその家族の姿を彷彿させるものがあります。この姿を見るだけで、いかに、子ども達の持つ潜在能力が凄いか、そして、普段の暮らしで発揮できる機会が少ないか、大人が、その機会を与えていないか、子ども達の力を信じきれないでいるか、などが見えてきます。

また、大人自身が、その体験を子ども時代にこななかったか なども問われます。要するに、経済効率優先 大量生産機械化 そしてIT社会化の中での、犠牲者かも知れません。

子ども達の遊びは、非効率 視覚的創造性 非効率 が高ければ高いほど、盛り上がる傾向があります。そんな意味で、薪運びや稲束運びや栗拾いなどの繰り返しの単純作業などは、皆でやれば大いに盛り上がり、そして、ご褒美に、葡萄や林檎のひとかけらだけでも、大人の年間ボーナスに匹敵するほどの、笑顔と喜びが湧き上がります。

そんな世界が繰り返される農作業の収穫の秋は、連日楽しみです。



【どうして いつも】

太陽 月 星 そして 雨 風 虹 やまびこ ああ 一ばん ふるいものばかりが どうして いつも
こんなに 一ばん あたらしいのだろう (大地日めくりカレンダー 28日 まど みちお)

28日の朝、トイレにあるカレンダーで目にした詩。自分の記憶を辿ってみると、深い感動シーンは、こんな場面が多かったです。オーストラリア砂漠での毎日の地平線からの朝日が、今の早朝が大好きな自分にあります。遊園地や刺激的人為的人工的な遊び等は、残念ながら記憶にあまりありません。大人達が、子ども達に思い出を残そうと、躍起になって刺激的に演出したりサービスするよりも、自然界からのサービス(!?) 例えば モルゲンロートや海の夕日、美しい大きな虹や満月などなど のほうが、遙かに記憶と感動の軍配が上がります。

こんな毎日の機会が 大地です。味覚に代表される果物や野菜の毎日。長男の大地時代、今の枝豆畑には、一本のネクタリンの木がありました。時期になると、そのネクタリンを散歩時に毎回食べ、それが毎年続いていました。それを、今でも、その木の姿を、そして美味しかったと語ってくれます。一度限りでは無く、その繰り返しがポイントです。幼児は、毎日の同じリズムの繰り返しが、平穏と安定を生み 深い感動と記憶が刻み込まれると言われています。しとしと雨と急激な夕立のどちらが、地面に深く吸い込まれるか浸透するか・・・? 先日まで 毎日規則的に食べ続けたひまわりの種とプルーン、ネクタリンと同じような記憶が 子ども達に残るか、20年後が楽しみです。

キャンプブーム コロナの影響もあり、空前の人気になっています。本来 キャンプは、自然を満喫する、いわば冒頭の 古いものへの出会いを求めていくものでしょうね。青山家の、テントキャンプの原点は、やはり山岳キャンプです。満点の星と静けさ、そして 下界では味わえない光景の広がる場所でのテント泊。そして、美しいモルゲンロートや星空を見るためのテント。テントから覗いた深夜の星空、白馬岳山頂キャンプサイトで、深夜に起きて、その星空のもとでのお話会、最高でした。だから、過去、山小屋に泊まった経験は、3回だけ。それも、長男や長女の勤める山小屋のお世話になった時のみ。それ以外は、いつも重いテントと食料を担いで登っていました。それは、自由気ままに、星空や静けさを満喫したいからです。最後の楽園と呼ばれている北アルプス裏銀座雲ノ平のテント場で、2人で深夜に、テントから枕元を外へ出して、横になり満点の星を見ながら眠った時は、まさに、最後の楽園を体感しました。

山岳以外でのキャンプやテント泊などをする時は、できるだけ美しい場所や環境や静けさなど山岳の魅力に近いもの(水場 トイレ などは優先順位が低い)を選び、一ばん ふるいものに出会える機会を求めて、キャンプを楽しみます。大地の野外教室も、緊急避難(天候や 警察のお世話!?)を除いては、そんな場所をできるだけ選んでいます。

日常の機能的な暮らしを、わざわざ自然に持ち込むこと無く(持ち込む時間や片付けの時間が大きくなり、自然と対峙できる時間がなくなる)、シンプルに楽しむこと、美しい静かな場所を見つけ 準備設営撤退を迅速に簡素に、そして、自然との対話を満喫する時間を楽しむ これが、青山家、大地のキャンプのポリシーですね。

ここ二ヶ月ほど、読み続けている、大草原シリーズの関連本に、似たような文章がありました。以下 抜粋(省略有り) 今から70年ぐらい前の、ローラによる執筆文章

家庭を守る主婦の仕事は、とても大変な仕事です。私は(ローラ)、今の人々が、他のことで忙しくなり、家庭を守るという大切な仕事の重要さを忘れていないかと思うのです。(略)最近 子どもの自殺が非常に増えてきています。少し前までは、そんな悲しい事は聞いたことはありませんでした。私は、自殺をする子どもは、家庭にきつと問題があるに違いないと思います。

家庭は大切なものですから、私たちは、変化の速い現代になおさら家庭をなおざりにしてはなりません。後になって、人格が試されるとき、良いものへ向かう力は、一握りの人の楽しむ近代的な利器や快楽からではなく、落ち着いた時間と、懐かしい我が家の「静かな小さな声」から得られるものなのです。略

私たち全てが共通して持っている、生きていくうえでの真実には、何ものにもかえがたい価値があります。自動車とかラジオの比ではありません。土地やお金よりも、ずっと大切なものです。私たちがこれまでに蓄えた、素晴らしい豊かなものは全て、野生のひまわりのような、平凡で美しいものによって、気づかされるものなおです。

家庭でも大地でも、ホームグラウンドは大切に美しく落ちついたものにしたいですね。日常 ホームグラウンドがしっかりしているからこそ アウェイ(外出やキャンプや行事)が楽しくなるのですね。青山家も、始終出歩いているように見えますが、掃除や片付けは、早朝や時を決めて、超集中的に効率的無駄なく、まさにプロジェクトマネジメントして、やり遂げて行きます。ここにも、準備設営撤退を迅速に簡素に の、キャンプの教訓を生かします!!

でも、2階にいらっしやる時は、必ず30分前には、事前連絡してください・・・・!!